

自主防災組織に関するアンケート集計結果

目次

1. アンケートの概要	2
2. アンケートの結果	3
(1) 自主防災組織の構成について	3
(2) 自主防災活動について	6
(3) 避難所運営委員会※について	20
(4) 避難行動要支援者名簿に係る個別計画※について	25
(5) その他	30
■ 自主防災組織に関するアンケート（アンケートシート）	40

2019（平成31）年3月

津市 危機管理部 防災室・各総合支所 地域振興課

1. アンケートの概要

○アンケートの目的

自主防災組織における活動状況とその課題を改めて把握することで、今後の地域防災力の向上に役立てていくため。

○アンケートの対象

津市内の864の自主防災組織等

○アンケートの方法

郵送にて各自主防災組織等の会長に送付及び回答依頼

FAX、電子メール、郵送、市関係機関への持参のいずれかの方法にて回収

○アンケート期間

平成30年9月10日から平成30年10月12日まで

○アンケート配布数及び回収数

対象地域	配布数	回収数	回収率
津全域	864	550	63.6%
津	326	224	68.7%
久居	125	64	51.2%
河芸	28	11	39.2%
芸濃	57	37	64.9%
美里	16	16	100%
安濃	46	46	100%
香良洲	9	9	100%
一志	52	35	67.3%
白山	72	30	41.6%
美杉	133	78	58.6%

○注意事項

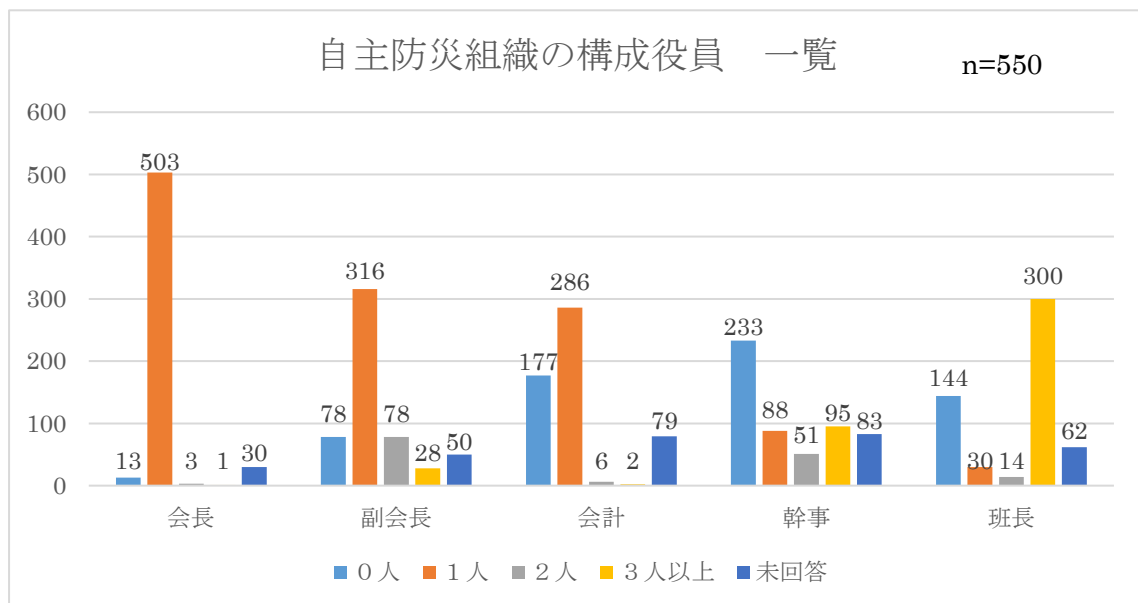
- ・各設問は無回答を含めて集計している。
- ・図表中の構成比率は、小数点第2位以下を切り捨てしている。
- ・図表中の「n」（Number of samplesの略）は、設問に対する回答者の総数を示しており、回答者の構成比（%）を算出するための基数である。

2. アンケートの結果

(1) 自主防災組織の構成について

質問1 自主防災組織の役員（会長、副会長、幹事、班長等）は何人いますか。
会長（ 人）、副会長（ 人）、会計（ 人）、幹事（ 人）
班長（ 人）、その他（ ）（ 人）

○自主防災組織の役員の割合をみると、副会長が1人、会計が1人の構成が最も多かった。



また、その他の役員の役職をみると以下のとおりであった。

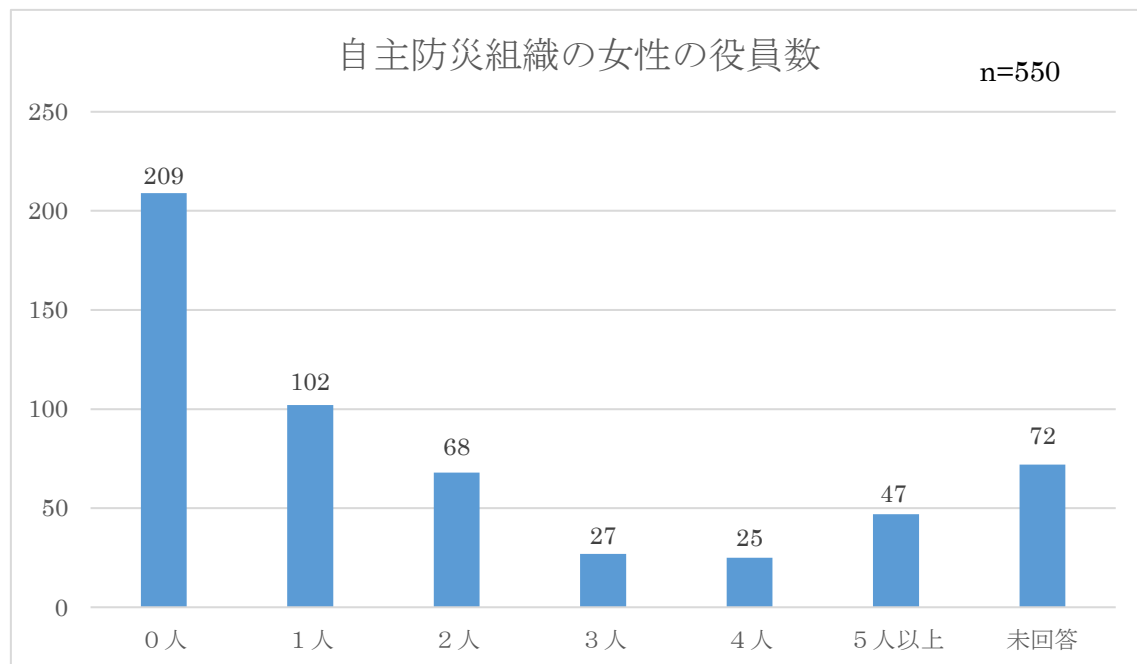
- ・ 班員（各班）
- ・ 副班長
- ・ 顧問
- ・ 民生委員
- ・ 自主防災委員
- ・ （会計）監査
- ・ 監事
- ・ 環境厚生部長
- ・ 文化体育部長
- ・ 事務局（長）
- ・ 代議員
- ・ 組長
- ・ 各担当メンバー
- ・ 特別救助隊
- ・ 見守りネット隊
- ・ 各自治会長（複数の自治会が組織している自主防災組織）
- ・ 各自主防災会（複数の自主防災会が組織している地区自主防災協議会）
- ・ 自治会役員
- ・ 書記
- ・ 部会長
- ・ 役員
- ・ 委員
- ・ （各棟）管理人
- ・ 自主防災担当責任者
- ・ 給食係
- ・ 避難誘導、救護係
- ・ 情報収集、初期消火係
- ・ 理事
- ・ 地区委員
- ・ 事務局スタッフ
- ・ 広報係
- ・ 防災リーダー、副リーダー
- ・ 隊長
- ・ 各ブロック会長

質問2 自主防災組織の役員で、女性は何人いますか。

(☐いる _____ 人、 ☐いない)

○自主防災組織の役員の中では女性の役員がいる組織は269組織、いない組織は209組織であった。(72組織については未回答。)

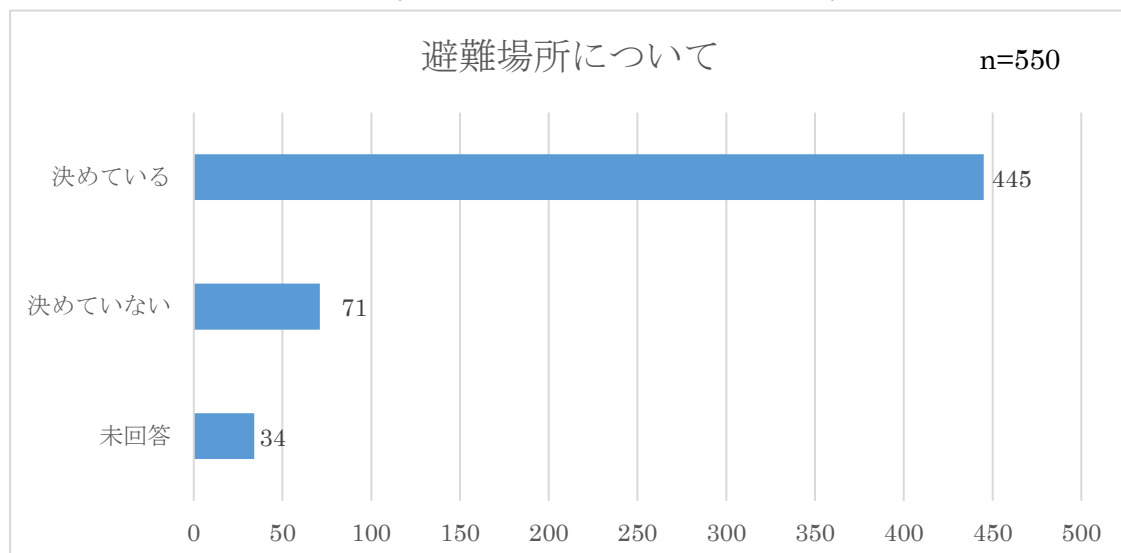
また、女性の役員がいる組織の約62%は複数名であった。



質問3 あなたの自主防災会は、避難する場所を決めていますか。

☐ 決めている。(避難場所 _____) ☐ 決めていない。

○避難する場所を決めている組織は、445組織、避難する場所を決めていない組織は、71組織であった。(34組織については未回答。)



また、避難場所として検討している場所は以下のとおりであった。

- ・小中学校、高校、大学
- ・集会所、公民館、地域住民センター、コミュニティセンター
- ・公園
- ・指定避難所、一時避難場所
- ・津波避難ビル
- ・要配慮者利用施設
- ・個人宅
- ・ホテル
- ・商工会、アリーナ、ごみ集積所

(2) 自主防災活動について

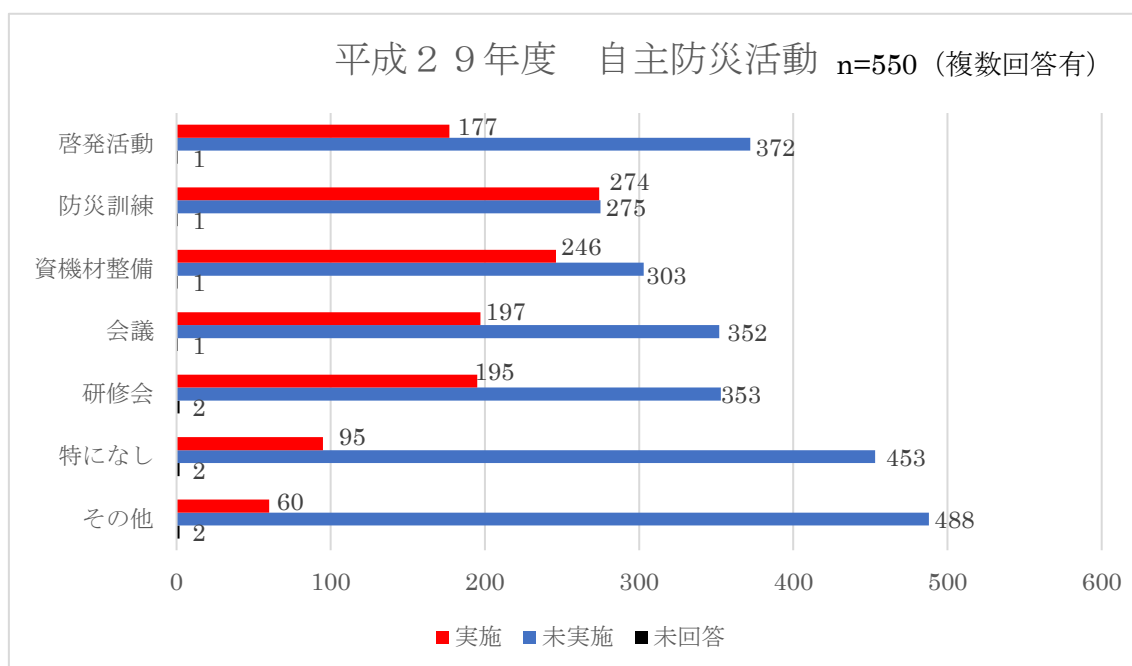
質問４ 平成２９年度に、どのような自主防災活動をされましたか。該当するもの全てにチェック等をお願いします。

- ☐ 防災知識の啓発活動（防災学習会を含む）の実施
- ☐ 防災訓練の実施
- ☐ 防災資機材の購入、整備
- ☐ 組織内外の会議、打ち合わせ等の会合
- ☐ 防災研修会等への参加
- ☐ 特に何もしていない
- ☐ その他

（具体的に_____）

○以下のとおりの調査結果となり、活動内容としては、防災訓練の実施、防災資機材の整備が多い傾向にあった。

また、平成２９年度に全く防災活動をしていない組織は、アンケートの回答組織の１７％程度であった。



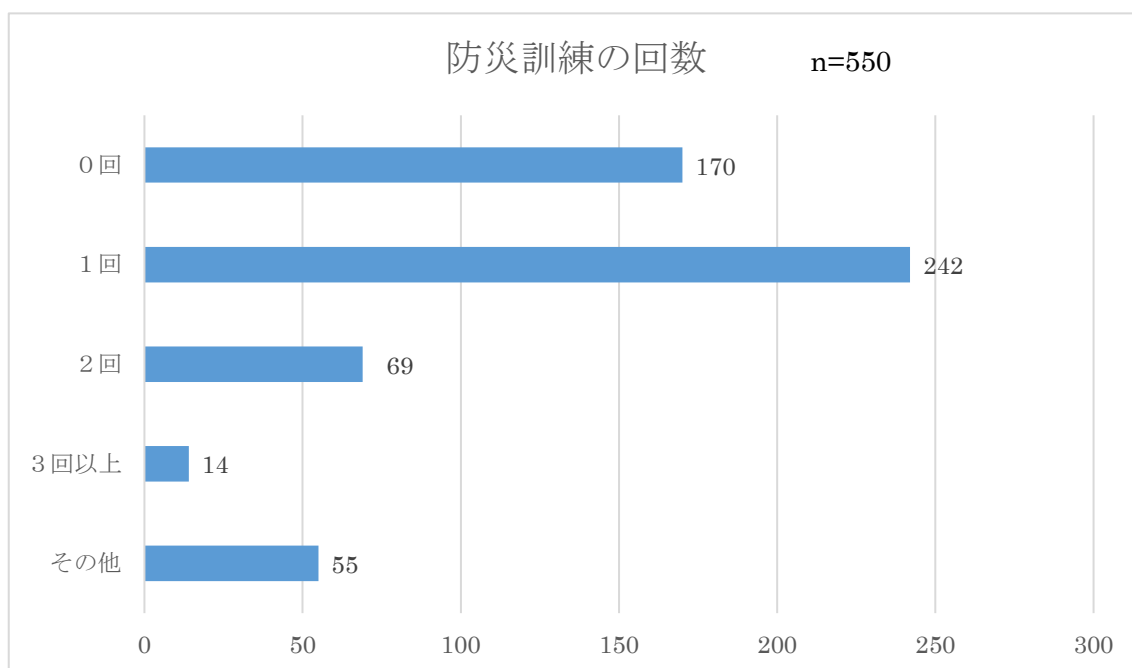
その他の項目で挙げていただいたものは主に以下のとおりであった。

- ・避難行動要支援者宅の訪問
- ・他地域の防災訓練、避難所運営訓練に参加
- ・避難行動要支援者への声かけ運動
- ・地震体験車の利用
- ・避難行動要支援者名簿登載者に関する情報交換会の実施
- ・避難行動要支援者の所在情報と支援内容の把握
- ・ワールドカフェ方式による話し合い
- ・自治会総会で避難先への避難ルートを再確認
- ・防火設備点検
- ・自治会の夜間人口調査
- ・各組ごとでの連絡網の作成及び配布
- ・炊出し訓練
- ・台風第21号に係る避難勧告等の発令に伴う町内の全世帯への連絡及びハンドマイクによる町内全域への避難の呼びかけ
- ・阿倍野防災センターへの視察
- ・集団での自主避難
- ・防災組織の確認
- ・各支部での話し合い

- ・過去の被害の検証対策の実施
- ・住民からの危険箇所の情報収集
- ・安否確認
- ・避難経路見直しの実施（タウンウォッチング）
- ・防災無線での防災に関する周知
- ・可搬式消防ポンプの点検手入れ
- ・レディオキューブ三重「みえ防災ハンドブック」を各戸に配布
- ・ポンプ車の手入れ（毎月1回班ごとに）
- ・自主防災活動班の見直しをし、回覧にて全員に周知徹底

質問5 あなたの自主防災会では、防災訓練を年に何回実施していますか。
 （防災訓練の回数 回/年）

○防災訓練の回数については、1回が最も多く、1回もしていないところが2番目に多い傾向にあった。

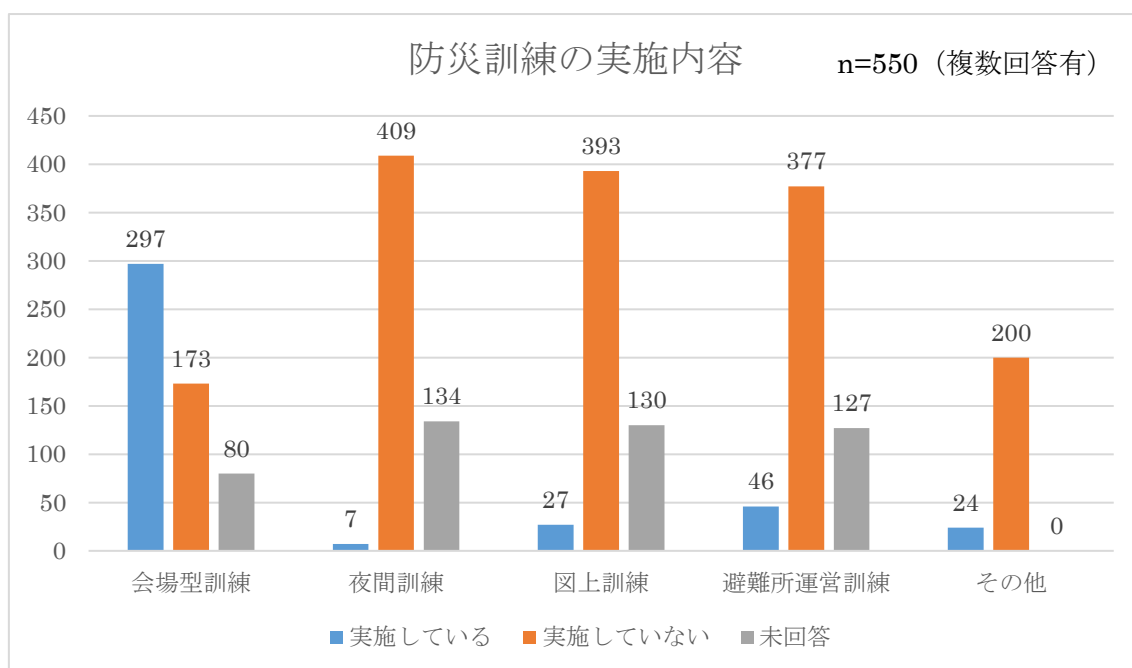


質問6 防災訓練の内容はどのようなものですか。該当するもの全てにチェック等をお願いします。

- ☐ 会場型訓練（消火訓練、救出救護訓練、避難・誘導訓練、給食・給水訓練）
- ☐ 夜間訓練（夜間に発生した場合に備える訓練）
- ☐ 災害図上訓練（地図を囲み災害時の対策等を図上で考える訓練）
- ☐ 避難所設営・運営訓練（避難所の管理運営と復旧時を想定した訓練）
- ☐ その他（具体的に_____）

○防災訓練の内容については、会場型訓練を実施しているところが最も多く、2番目は避難所運営訓練を実施しているところが多かった。

また、夜間訓練を実施しているところは1組織あり、ほぼ全ての組織は未実施であった。



また、その他の訓練内容については、主に以下の項目であった。

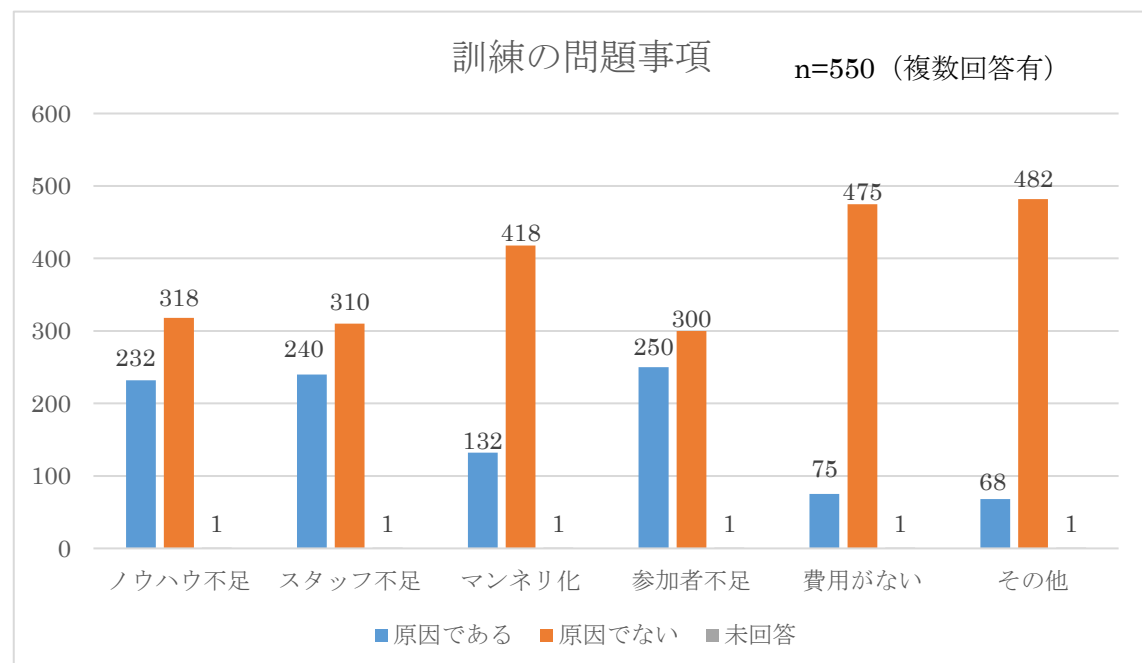
- ・ 非常食の試食体験
- ・ 炊き出し訓練
- ・ 土嚢袋作成体験
- ・ 三重短期大学までの避難訓練（車椅子の使用も含む）
- ・ 津波避難ビルへの避難訓練

- ・各訓練への指導参加
- ・三重県総合文化センターまでの避難同行
- ・想定被害から身を守る危険回避の方法検討
- ・黄色いハンカチによる「我が家は大丈夫」の活用
- ・自治会保有の防災グッズの取扱訓練
- ・黄色い布作戦（安否確認訓練）
- ・地震体験車（県）
- ・安否確認の集合、確認、報告
- ・救急救命
- ・災害への心構え、対応に係る訓練
- ・避難行動要支援者の避難支援をテーマに訓練実施
- ・消火器、消火栓ホースの使用訓練
- ・みえ防災コーディネータによる訓練

質問7 自主防災訓練を計画・実施する上で問題となっていることは何ですか。該当するもの全てにチェック等をお願いします。

- ☐ 訓練計画の作成や実施についてのノウハウが不足している。
- ☐ 訓練計画の作成や、訓練を実施するスタッフが不足している。
- ☐ 訓練内容がマンネリ化している。
- ☐ 参加者が集まらない。
- ☐ 訓練実施のための費用の支出が難しい。
- ☐ その他（具体的に_____）

○自主防災訓練について問題となっていることについては、参加者不足が最も多く、2番目にスタッフ不足が多い傾向にあった。



また、その他については以下の項目が主にあった。

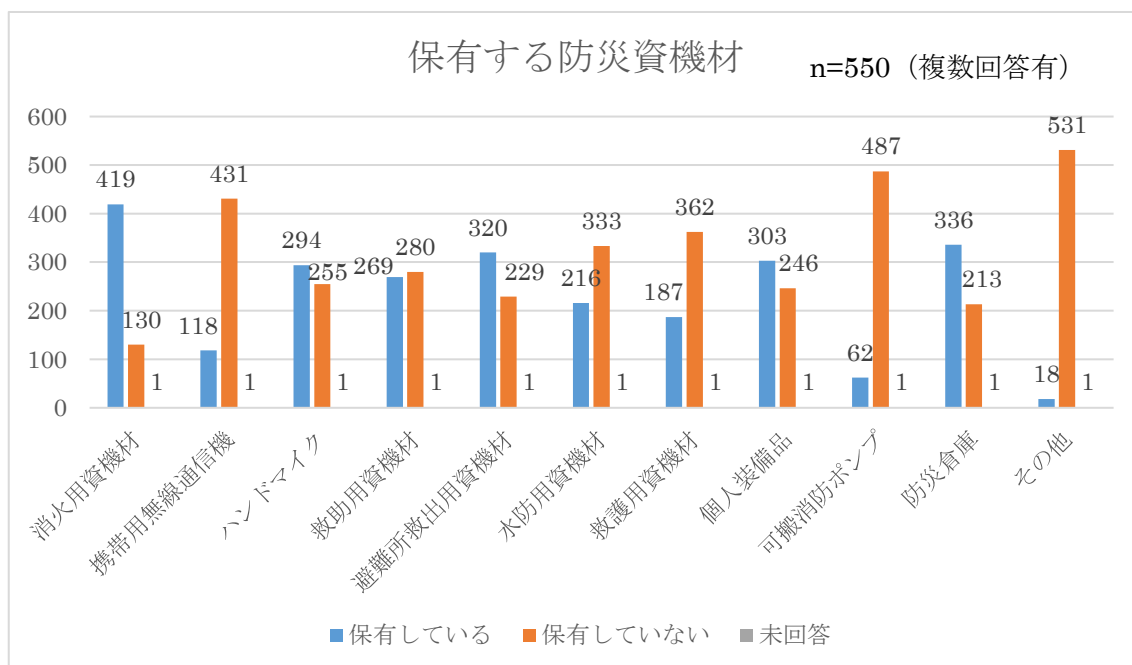
- ・防災規定、計画が実態に合っていない
- ・計画がそもそもない、計画できない
- ・道具や機器等不足がちで思った日に訓練が実施できない
- ・高齢者が多く、避難自体が難しい
- ・各世帯で決めている避難場所への避難訓練、所要時間の把握が難しい
- ・避難場所が正しい場所かどうか不安である
- ・自主防災会が実態として存在しない、組織できない
- ・役員の交代が早い
- ・専門的な人の不足
- ・やる気がない
- ・防災に対しての認識・意識不足
- ・会場・場所がない
- ・訓練不足
- ・若者の参加者不足
- ・人数不足
- ・広報活動に悩んでいる
- ・訓練後の問題点を解消できるかどうか不安
- ・高齢化により、発生時の対応につなげる仕組みが必要

質問8 あなたの自主防災会が保有している防災資機材について、該当するものの全てにチェック等をお願いします。

- ☐ 初期消火用資機材（消火器、バケツ等）
- ☐ 携帯用無線通信機
- ☐ ハンドマイク
- ☐ 救助用資器材（ジャッキ・バール等）
- ☐ 避難救出用資機材（テント、担架等）
- ☐ 水防用資機材（土嚢用袋、かけや等）
- ☐ 救護用資機材（救急医療用セット、ろ水器等）
- ☐ 個人の装備品（ヘルメット、防火衣等）
- ☐ 可搬消防ポンプ
- ☐ 防災倉庫
- ☐ その他（仮設トイレ、防水シート等）

（具体的に _____ ）

○自主防災会が保有する防災資機材については、消火用資機材が1番多く組織が保有しており、2番目に防災倉庫、3番目に避難所救出用資機材、4番目に個人装備品を多く組織が保有している結果となった。



また、その他については以下の項目が主にあった。

- ・消火栓用開閉器
- ・消防ホース
- ・発電機、太陽光発電機、自家発電機、非常用カセットボンベ発電機
- ・照明灯
- ・防水シート
- ・防水シート
- ・カセットコンロ、炊き出し用コンロ
- ・防災用テント
- ・井戸
- ・仮設トイレ
- ・簡易トイレ
- ・携帯トイレ
- ・ポータブルトイレ
- ・毛布
- ・防水シート
- ・リヤカー、折り畳みリヤカー、一輪車、ノーパンクタイヤのリヤカー
- ・車椅子
- ・洗浄用飲料水
- ・非常時の水の保管（期限切れの水も問題なく使用できると聞いたため保有）
- ・6人乗りボート
- ・コードリール、ハロゲンリール
- ・簡易コンロ
- ・笛
- ・炊出し用具、鍋、炊飯器
- ・ロープ
- ・アルミシート
- ・電池
- ・アルファ米
- ・LEDライト、ライト
- ・エアコンプレッサー
- ・我が家は大丈夫の黄色の旗・「安否確認の旗」
- ・担架
- ・やかん
- ・タオル

- ・かけモック
- ・スコップ
- ・ドラム
- ・石油ストーブ
- ・竹、木材
- ・自家発電機
- ・マイルディシート
- ・ヘッドランプ
- ・マスク
- ・机
- ・ガソリン
- ・電子レンジ
- ・携帯充電器
- ・ごみ袋60ℓ
- ・パンジュウ
- ・照明機器
- ・防寒具
- ・ジャッキ

質問9 南海トラフ地震や大規模災害が発生した場合、国や三重県、津市から
 救援物資がすぐに到着しないことも考えられますが、各自主防災会で災害
 に備えて上記以外に準備していますか。該当するもの全てにチェック等
 をお願いします。

☐ 食糧

(具体的に_____)

(記入例：乾パン900缶、2リットル水900本(100世帯×3日分))

☐ その他

(具体的に_____)

○自主防災会では、大規模災害時の食糧の備えは約27%、その他の備えは約
 4%の組織が備えているとの結果となった。

【大規模災害時の自主防災会での備え】 n=550

	備えている	備えていない、未回答等
食糧	151組織	399組織
その他	21組織	529組織

また、食糧やその他のもの、意見としては以下の項目が主にあった。

【食糧について】

- ・ 乾パン
- ・ アルファ米、米、わかめごはん
- ・ 水
- ・ パン
- ・ 缶詰パン
- ・ ビスコ
- ・ エイヨウカン
- ・ カレー、ドライカレー
- ・ ビスケット
- ・ 乾菓子
- ・ クラッカー
- ・ 玄米スナック
- ・ 缶入りソフトパン
- ・ 果物
- ・ リッツ缶
- ・ 乾燥白粥
- ・ 野菜スープ
- ・ カロリーメイト
- ・ 温かい食料ラーメン
- ・ うどん
- ・ 味噌汁
- ・ 農家備蓄
- ・ 山菜おこわ
- ・ エビピラフ
- ・ やきとり

【その他について】

- ・ 発電機
- ・ チェーンソー
- ・ ブルーシート
- ・ リヤカー
- ・ 一輪車
- ・ タオル
- ・ 軍手

- ・マスク
- ・毛布
- ・災害用トイレ処理セット
- ・釜
- ・非常用保温アルミシート
- ・折り畳み式リヤカー
- ・ホットシート
- ・簡易寝袋
- ・トイレマン
- ・サバイバルシート
- ・ウォーターコンテナ
- ・携帯トイレ
- ・オムツ
- ・パッド

【意見について】

- ・全く準備していない。何を準備すべきか理解していない
- ・食糧は原則各家庭で準備することになっている
- ・もう少し備蓄量を増やす予定だが、防災倉庫も海、川に近く結果としてあまり役に立たないことが予想される。
- ・各世帯で準備するようお願いしている（ローリングストック法を促し、実践を奨励中）
- ・備蓄を考えたい
- ・備蓄はしていないが、防災倉庫に本当に備蓄が必要か疑問である
- ・防災倉庫を点検し、整備予定である
- ・役員及び指導者がいないため、準備していない
- ・当団地では各戸でのローリングストックを進めており、非常時に助け合うようにしている
- ・防災倉庫に備えていた食糧の保存状態が悪かったため、備えていない
- ・備蓄食糧を確認したところ、全て期限切れであった
- ・置き場所がない
- ・行政が準備することである
- ・土地、金がない
- ・非常食としては保管していないが地域の実情から各家庭での食糧、飲料水の確保は可能と思われる
- ・非常持ち出し袋を兼ねて数日間の食料、水は井戸と浄水器があるので準備しない

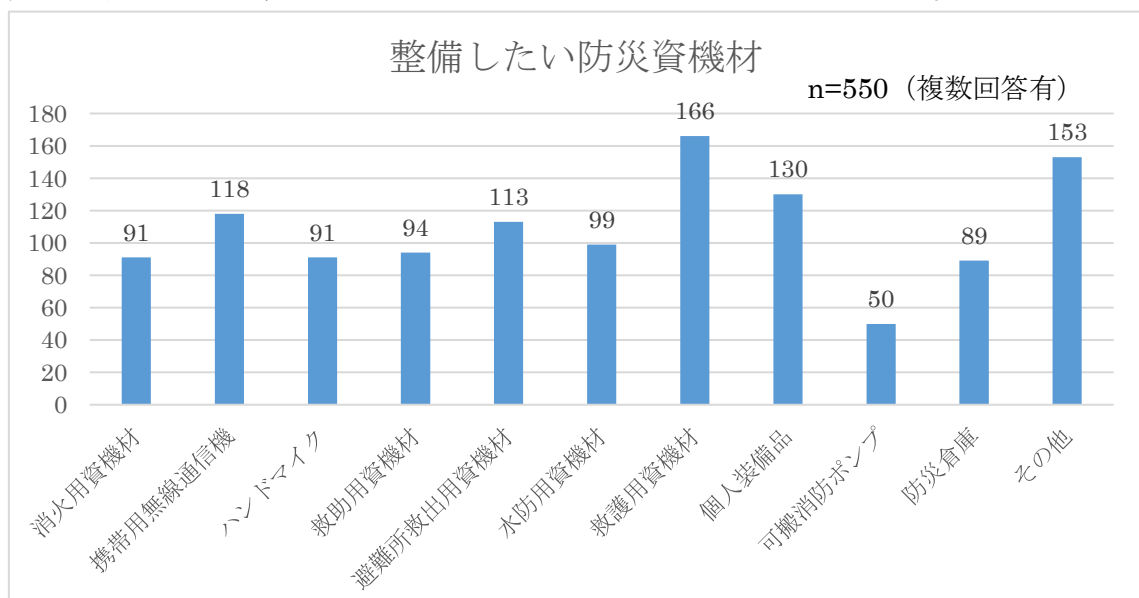
- ・各家庭で3日以上の食料・水を備蓄するよう指導しているが本人の自主性に任せている
- ・全く準備していない。何を準備すべきかも理解していない
- ・食糧は原則各家庭で準備することになっている
- ・水の必要性が一番だが置き場所がない。
- ・行政が準備することであり、防災会では保管する場所ない。
- ・避難用(集会所)の間仕切り用及び簡易ベッド用の段ボールセットが全くない。
- ・自治会での備えは考えていない
- ・防災グッズ等については個々で準備してほしい
- ・土地がない
- ・大型の仮設トイレが欲しいが金がない

質問10 あなたの自主防災会が、今後、整備をしていきたいと考えている防災資機材について、該当するもの全てにチェック等をお願いします。

- ☐ 初期消火用資機材（消火器、バケツ等）
- ☐ 携帯用無線通信機
- ☐ ハンドマイク
- ☐ 救助用資器材（ジャッキ・バール等）
- ☐ 避難救出用資機材（テント、担架等）
- ☐ 水防用資機材（土嚢用袋、かけや等）
- ☐ 救護用資機材（救急医療用セット等）
- ☐ 個人の装備品（ヘルメット、防火衣等）
- ☐ 可搬消防ポンプ
- ☐ 防災倉庫
- ☐ その他（仮設トイレ、防水シート等）

（具体的に _____）

○整備したい防災資機材については、救助用資機材が最も多く、2番目に個人の装備品、3番目に携帯用無線通信機を希望している傾向にあった。



また、その他に整備したい防災資機材としては主に以下のとおりであった。

- ・食料、飲料水
- ・防水シート、ブルーシート
- ・仮設トイレ（大型のものも含む）、災害用トイレ、ポータブルトイレ
- ・浄水器
- ・毛布
- ・車いす補助具
- ・段ボールベッド
- ・大型テント
- ・炊き出しコンロ、ガスコンロ
- ・梯子
- ・発電機
- ・避難先への防災倉庫設置
- ・ボート
- ・A E D
- ・避難所備品
- ・照明施設
- ・給水袋（5～10ℓ）
- ・防寒用シート
- ・水害時の高台避難所
- ・災害用井戸
- ・軽四貨物自動車
- ・給水タンク（ポリタンク）
- ・避難所（体育館）のフロアに敷くマット
- ・非常持出袋(用品含む)
- ・リヤカー
- ・防寒用アルミはく
- ・井戸掘削
- ・簡易ベッド用ダンボールセット
- ・格納用倉庫（防水）
- ・懐中電灯
- ・ヘルメット

質問 1 1 津市地域防災力強化推進補助金において、新たに補助対象に追加を希望する防災資機材等がありましたら、ご記入ください。

(具体的に _____)

○津市地域防災力強化推進補助金で、追加要望する防災資機材等は以下のとおりであった。また、防災資機材等の中でも元々対象の防災資機材等となっているものもあったため、制度の周知が必要である。

【対象となっている防災資機材等】

- ・リヤカー車輪（パンクしない物）
- ・防災倉庫
- ・毛布
- ・携帯ガスコンロ
- ・簡易テント（避難用）
- ・仮設トイレ
- ・防水シート
- ・水保有タンク
- ・災害時用のラジオ
- ・泥水ろ過機
- ・備蓄用食糧、水
- ・ライフジャケット
- ・携帯トイレ
- ・ブルーシート
- ・連合会をまたいでの防災倉庫設置等の共同購入
- ・可搬消防ポンプ
- ・避難場所用エアマット
- ・緊急時の搬送用具” かけモググ”
- ・消火器
- ・ヘルメット
- ・バケツ
- ・炊出備品
- ・間仕切壁
- ・ガス発電機、出力の高い発電機
- ・テント
- ・JINRIKISHA（車いす補助具）

- ・浄水器
 - ・乾電池、カセット等
 - ・トイレ用凝固剤
 - ・ハンドウィンチ
- 【対象となっていない防災資機材等】
- ・ＴＶ（避難所に避難者が情報を収集できるようにするため）
 - ・井戸掘削
 - ・放送用非常電源
 - ・置き場所（土地）を市で設けること
 - ・軽四貨物自動車
 - ・感震ブレーカー設置補助
 - ・草刈機（公園が避難場所となっているが草が伸び放題となっているため）
 - ・ベンチ
 - ・避難所の整備費用
 - ・ライフジャケットの戸別配布
 - ・エアコン（避難所公民館）

(3) 避難所運営委員会※について

※避難所運営委員会とは、避難所の運営を自主的に協議し、決定するために、自主防災組織、避難者、行政担当者、施設管理者等で構成する組織。

質問１２ 大規模災害発生時（南海トラフ地震等）には、行政職員の避難所への到着が遅れたり、職員自身が被災してしまうこともあるため、避難所の開設・運営は地域住民が主体となって実施することも必要となる場合がありますが、このことを知っていますか。

☐ はい ☐ いいえ

○大規模災害発生時には、地域住民主体の避難所開設・運営の重要性について知っていただいている自主防災組織は、約６１％であった。

【大規模災害発生時における地域住民主体の避難所開設・運営の重要性】

	知っている	知らない	未回答
地域住民主体の重要性の認知の有無	３３７	１８２	３１

n=550

質問 1 3 あなたの組織では、避難所運営委員会を設立されていますか。

☐ はい ☐ いいえ

(はいを選んだ場合は、(3)から(7)についても回答をお願いします。)

○自主防災組織の中で避難所運営委員会を設立している組織は約 1 2 %であった。

【避難所運営委員会の有無】

	ある	ない	未回答
避難所運営委員会	6 4	4 5 6	3 0

n=550

質問 1 4 避難所運営委員会の中で女性が委員として存在している委員会ですか。

☐ はい (_____ 人) ☐ いいえ

○避難所運営委員会を結成している中で、女性が委員として存在している委員会は約 5 7 %であった。

【避難所運営委員会の女性の有無】

	いる	いない
女性の有無	3 7	2 7

n=64

質問 1 5 避難所運営マニュアルを作成していますか。

☐ はい ☐ いいえ

○避難所運営マニュアルを作成している地域は約 7 %であった。

【避難所運営マニュアルの有無】

	ある	ない	未回答
マニュアルの有無	3 9	2 2 7	2 8 4

n=550

質問 1 6 避難所運営訓練等の活動を行っていますか。

☐ はい ☐ いいえ

○避難所運営訓練を実施している組織は約 6 %であった。

【避難所運営訓練等の有無】

	ある	ない	未回答
訓練等の有無	3 4	2 3 7	2 7 9

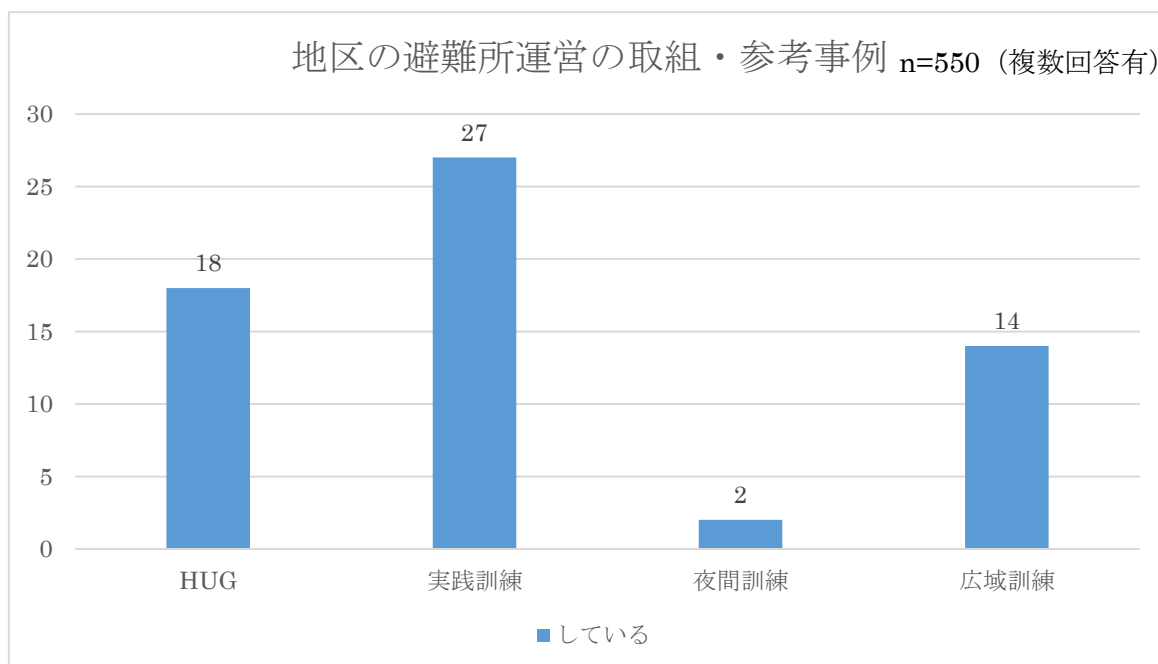
n=550

質問 1 7 避難所運営委員会の運営について、地区で取り組んでいる事例、参考となる事例等がありましたら、該当するもの全てにチェック等を入れてください。

- ☐ 避難所運営ゲーム（HUG）を実施している。
- ☐ 避難所運営訓練（実践形式）を実施している。
- ☐ 夜間訓練を実施している。
- ☐ 広域の避難所運営訓練を実施している。
- ☐ その他

（具体的に_____）

○地区の取組事例について実践形式での訓練に取り組んでいるところが最も多かった。



その他の項目については、以下のものがあつた。

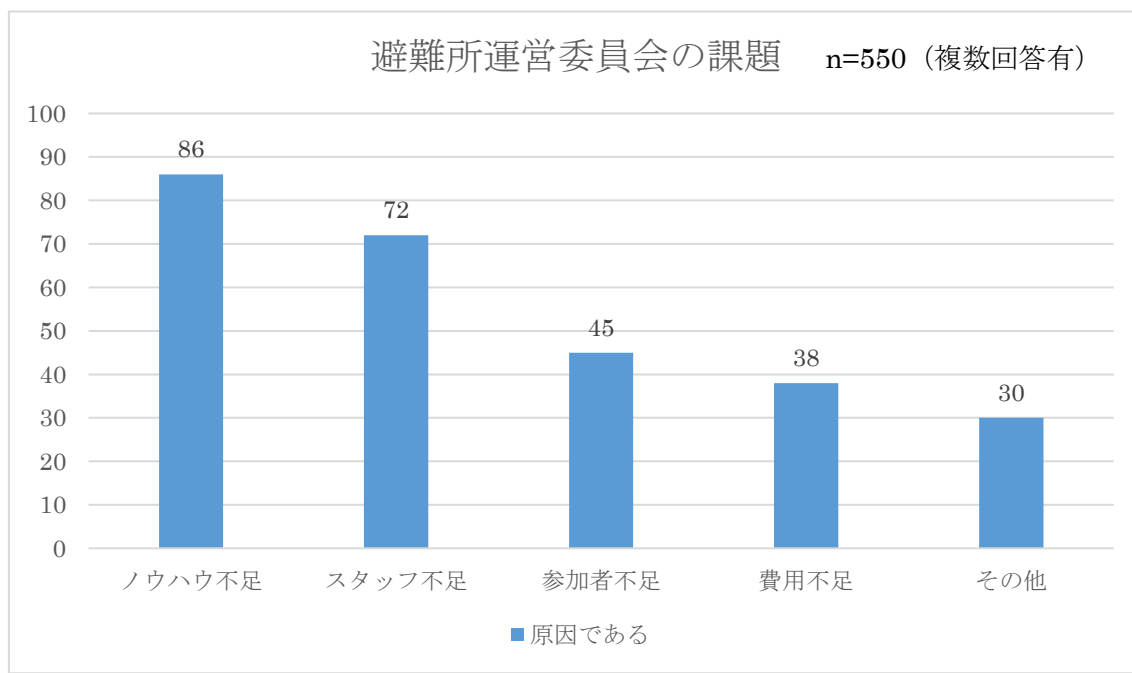
- ・避難所運営班毎の研修会
- ・避難運営委員会名簿等を毎年改正している。（5個避難所実施）
- ・非常食・物資等の確認、発電機・照明機器の確認とテスト、避難者スペースの設置、毛布等の準備、マンホールトイレ・組立トイレ
- ・小学校で保管されている防災用品、用具、食料（乾パン、水等）の棚卸と確認
- ・発電機やテントを設立して、避難所運営訓練をしている。
- ・避難所運営訓練（地区）への参加。

質問 18 避難所運営委員会の運営について、課題等がありましたら、該当するもの全てにチェック等を入れてください。

- ☐ 避難所運営委員会の運営についてのノウハウが不足している。
- ☐ 避難所運営委員会の運営に協力してくれるスタッフが不足している。
- ☐ 参加者が集まらない。
- ☐ 訓練実施のための費用の支出が難しい。
- ☐ その他

（具体的に _____）

○避難所運営委員会の課題としては、ノウハウの不足が最も多く、2番目にスタッフの不足、3番目に参加者の不足の順に挙げられていた。



また、その他の項目については、以下のとおりであった。

- ・火災対策をしているが、万全ではない。
- ・広域避難を前提とした広域自治会の調整組織を早急に確立する必要がある。
- ・訓練計画実施の未実施
- ・自主防災会に補助はない
- ・訓練は予想される訓練をしなければならない。自分の地域で水害のあったことでの訓練は必要ないが水害にあった人が助けを求めてきたら助けなければならない。結果地域にあった訓練が必要。いずれにしても、行政に頼るのは限界がある。自主ではなく自己防衛が必要。
- ・地域のコミュニティが希薄である。
- ・地区には5つの避難所があり、避難所ごとに実施することはできないので、地区がやらなければならない。
- ・住民の関心が薄く参加しない。
- ・参加者が集まりにくい理由は、マンション、アパートの住人が増えたから。
- ・地域住民の高齢化
- ・避難所運営委員会が数自治会長の集合体であり、自治会長の半数は1年任期なので運営委員会として実質的に稼働するか、かなり疑問である。行政のイニシアチブが必要ではないか。
- ・被災規模により、どれだけの活動が必要で可能なのか具体化する資料がない
- ・広域避難を想定した研修会、訓練を実施しているが、海岸地域の方の危機管理意識が低いように思う。
- ・災害の経験がないので他人事と思って真剣に考える人が少ない。訓練は役員のみで住民の参加はないと思う。

(4) 避難行動要支援者名簿に係る個別計画※について

※個別計画とは、地域の特性や実情を踏まえつつ、避難行動要支援者名簿情報に基づき、避難行動要支援者と打ち合わせ、具体的な避難方法等を記載したもの。

なお、津市では、避難行動要支援者避難支援活用シート（津市避難行動要支援者避難支援対策マニュアルの21ページに掲載してあります。）を作成しており、当該情報に記載してあれば、個別計画を網羅できているものとしている。

質問19 避難行動要支援者に対する個別計画を作成していますか。

☐ はい ☐ いいえ

○個別計画の作成数については、全体の約5%であった。

【個別計画の作成の有無】

	ある	ない
個別計画	27	523

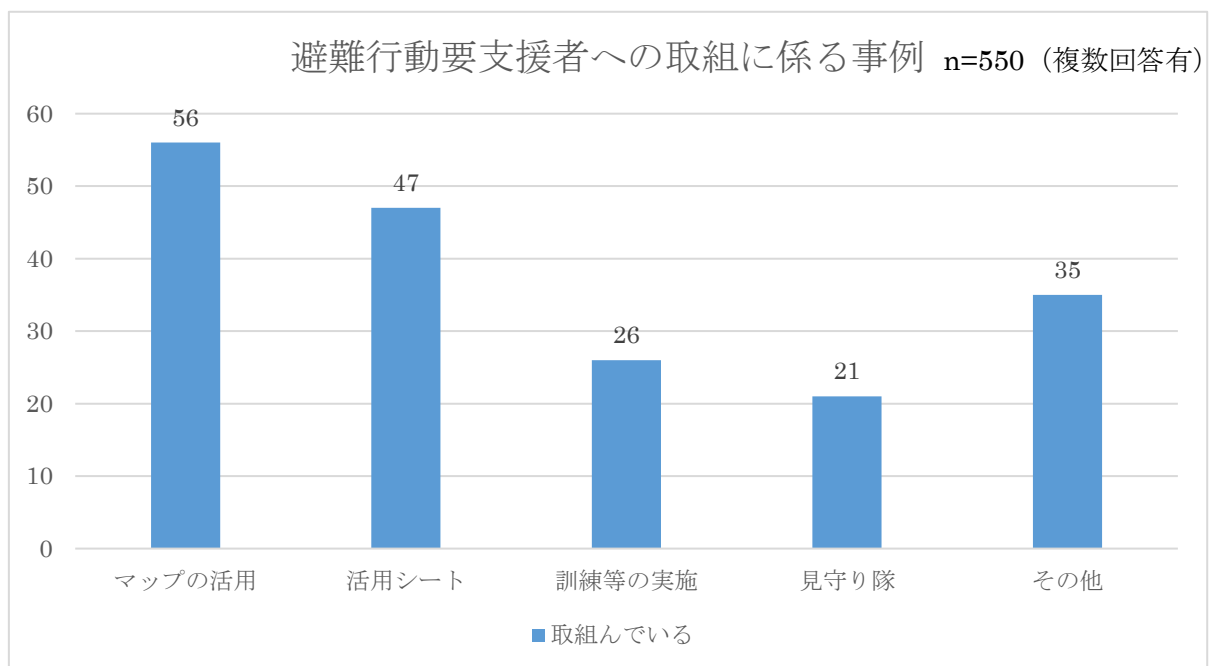
n=550

質問20 個別計画の作成や平常時の取組について、地区で取り組んでいる事例、参考となる事例等がありましたら、該当するもの全てにチェック等を入れてください。

- ☐ 避難行動要支援者の所在を記載した地図を作成し、活用している。
- ☐ 避難行動要支援者避難支援活用シートを作成し、活用している。
- ☐ 玄関先へのタオル掛けや旗等を置く訓練等を実施している。
- ☐ 見守り隊を構築し、避難行動要支援者の支援体制を整備している。
- ☐ その他

(具体的に _____)

○地区の避難行動要支援者への取組事例についてマップの活用が最も多く、2番目に活用シートの活用、3番目に見守り隊の構築が多くあった。



また、その他の取組については、以下のものがあつた。

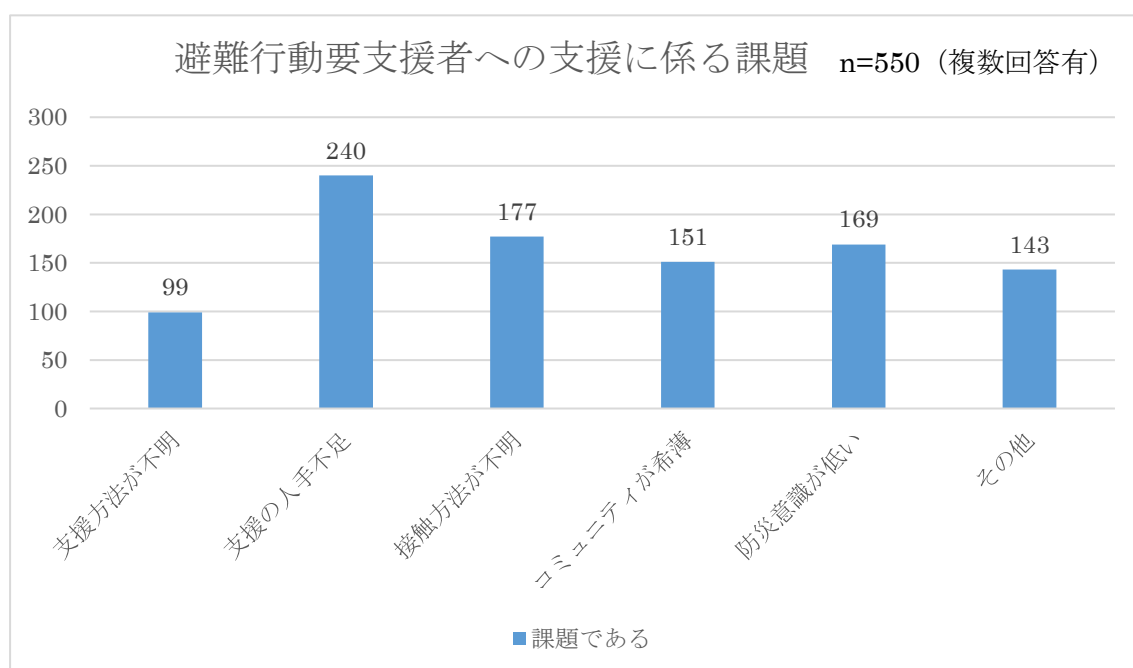
- ・役員さんに情報提供をしている、民生委員との情報交換をしている
- ・個々に行先、道を指導している
- ・一人住まい老人月1～2回訪問しコミュニケーションを図る。要支援者への担当者を決めている
- ・当自主防災会においてはマンションなので各戸協力の元、行うようにしている
- ・避難済黄旗を各戸に配布
- ・旧来の土地なので親戚や近隣者に依頼する。
- ・支援者宅を訪問し支援を確認し、行動支援担当を決めている。
- ・活用シートを一覧表にまとめコピーし、会長・副会長で1部ずつ保管
- ・役員に名簿と地図を配布
- ・自治会（自主防災会）の本部役員、班長に所属している要支援者の氏名を伝達して、災害発生時の声かけ、確認をお願いしている程度である。
- ・避難訓練時に班全員で要支援者の支援訓練を実施
- ・運営委員（7人）に名簿は渡している。
- ・計画的ではないが、支援者宅に時々雑談に行っているが、今日、個人主義、情報公開その他有り、個人的なことには限界がある。
- ・要支援者自身に日ごろから隣、近所へ「助けて」と依頼するよう話したり、風水害時は早めに避難するよう言っている。
- ・高齢者独居世帯については大型台風接近情報（タイムライン）結果により親族に連絡してもらっている（民生委員と連携）

質問 2 1 避難行動要支援者を支援する際の課題がありましたら、該当するもの全てにチェック等を入れてください。

- ☐ どのように支援したらいいのかわからない。
- ☐ 支援するための人手が足りない。
- ☐ 避難行動要支援者とうまく接触する方法がわからない。
- ☐ 地域でのコミュニティが希薄である。
- ☐ 周りの方の防災意識が高くない。
- ☐ その他

(具体的に _____)

○避難行動要支援者の支援時の課題として、支援の人手不足が最も多く、2 番目に接触方法の不明瞭さ、3 番目に防災意識の低さが多かった。



また、その他の項目としては、以下のとおりであった。

- ・高齢者が早々具体的に身体を使う訓練は考えられない。
- ・要支援者リストが個人情報保護条例等により会長以外は公開されないの
でリスト者の共有ができない。
- ・ホームグラウンドがないので未だレベルではない。
- ・家のことは他人に知られたくない気持ちが大きい。
- ・元気な方で要支援となっている
- ・個人情報との絡みを耳にし、具体的取組に入れない状況にある。
- ・要支援者で医療機関の障害カードが発行されているが、何が障害かわから
ない。(常に高級車に乗っている) 自治会長、防災会長に教えてほしい。(民
生委員は知っている)
- ・普段は施設にいて在宅していない。
- ・家族の連絡先が明らかでない。
- ・明らかであったとしても本当に有事の時、手助けが必要かわからない。
- ・実情として必要性は認識しているが、手の回らないのが現実。
- ・プライバシーの関係で難しい。
- ・人間はいざという時の行動は自分本位(家族優先)。結局は自治会役員(会
長)にかかってくると思う。
- ・アパートが多く、アパート名・室番号・連絡先が分からないので管理会社
が管理していただきたい。
- ・いざとなったら、近隣の人との協力で何とかするとの淡い期待もあるが、心
配である。(車いすに乗せての避難補助等)
- ・一時避難所がないので皆バラバラになる
- ・要支援者名簿を回覧でまわすなどして公開した方がいいのか不明である
- ・民生委員と自治会の連携ができていない
- ・支援する人より支援を必要とする人の方が多い
- ・個人情報等もあり避難行動計画は難しい
- ・組織として知識やノウハウが足りない。形骸化している
- ・支援する側も高齢化している
- ・避難行動支援を組長まで知られたくない
- ・昼間は老人が多数になり、人手がないのと意識がないため、援助を断られ
る。
- ・要支援者の中に施設入居者が見受けられる
- ・要支援者が協力的でない
- ・防災意識とはどの程度かわからない

- ・自治会長が1年交代のため継続されにくい。民生委員のほうが個別事情に詳しく、問い合わせている
 - ・助けが必要な人は自ら助けを求める事。緊急呼び出しの方法が必要。110, 119 ではないもの。折角助けに行っても助けがいないとか、拒否をされるとか多難、親子であっても言うことを聞かない、そのような事がないように啓蒙活動が必要。支援者だけの意識だけでは限界がある
 - ・自治会役員のみでは経験がないため、大災害で防災組織がどこまで機能するか不安
 - ・自分は安全と考えている
 - ・地区内に居住する外国人の問題。日本語が通じない。自治会を理解していない
 - ・個人情報活動が阻害している
 - ・若い方が参加しない
 - ・個別訪問しないでは個々の状況が不明だが、当団地にはその対象者が約80人もあり、自治会主要役員では困難でモチベーションが保てず手つかずである
 - ・個人情報ということで要支援者と面会することすら難しい
 - ・'要支援者の中には障がいを知られたくないため拒否する人がいる。(本人と支援者の理解がいる)。夜間は若者や同居者がいるが昼間は老人ばかりである
 - ・自治会は飛び地もあり東西では数百メートルの距離あり。海、川に近く、川の堤防は長く補強もされていない。自治会内に高齢者が多い。
- 以上から計画を作成してもその有効性や全体把握は大変難しく実現度は低いと思われる。
- ・避難行動要支援者の方々については、個人情報がある為、困惑する。
 - ・支援者が重度障害者を支援する時、身体に異変が出た場合、支援者の責任となると、これから支援する人がいなくなる。そういう素人の援助が難しい人は公的機関の援助を望む。
 - ・要支援者名簿は受領したが、具体的にどのような行動をとっていくのかについての指導を受けていない。個人情報の問題もあるので講習会の開催をお願いする。

(5) その他

自主防災会で取り組んでいる事例、他の自主防災会の参考となる事例、自主防災会を運営していく上での課題等がありましたら、ご記入ください。

○以下のような意見があった。

【自主防災会で取り組んでいる参考となる事例、取り組んでいる事例等】

- ・訓練と同時に納涼大会（ビンゴゲーム等）を開催していることもあり、住民の約7割の方が参加をしている

- ・自主防災訓練等のスタッフを抽出、参加依頼を実施しているところである

- ・防災倉庫は2つの自主防災会の所有となっているため、独自の倉庫を取得し防災機材を購入したい

- ・各自で防災資機材の準備を徹底するよう啓蒙している

- ・避難の必要性はあまりない地域にいるため、災害時の自宅避難を基本的考えとして、火災予防や初期消火の準備、家具の転倒防止、保存食・保存水の確保、トイレの備えなどを啓発していきたいと考えている

役員に対してこれらの備えをアンケート調査したところ、トータルで54%ほどの備えにとどまっていた。また災害発生時に自主防災会長や防災リーダーが不在の時、あるいは被災した場合の初動対応を役員内で周知を図ろうとしている

- ・町単位では避難所運営委員会と称するものは設置していないが、防災委員にマニュアルを作成し、意思統一を図っている

- ・南が丘地区・養正地区の事例を参考に今後、他地区自治会等として連携して早急に体制を確立したい

- ・①年2回、消火器点検をして、格納庫のサビや消火器の期限を確認。

- ②年に1回図上訓練、タウンウォッチングの作成

- ③年に7回防災フェスタを行い、体験ハウスや、AEDの体験、米を炊く、また子供向けにミニ消防車などを体験してもらい、子供から高齢者まで参加してもらえるようにしている。

- ・当地域は海拔が低く、毎年台風の度に、町内全域道路が冠水するため、高齢者は避難情報が発令される前に自主避難するよう行事の場や回覧にて通知している。そのため、早めの避難が実施されており、これが万一の大災害発生訓練になっている

- ・私達の地域は海拔5m以上あり津波の危険はない地震による家屋の倒壊と火

災である。各戸で事情が異なり損害の程度も異なる。自分の命は自分で守ることを前提に自主性に期待し勉強会にまず重点をおいて活動している。民生委員とも連絡を強化し弱者の具体的な支援方法を検討していくが組織としての活動ができていない。

- ・①毎年、新班長を対象に防災に関する勉強会を開催し、今年で7年になる。

- ②10月には全世帯対象の避難訓練を行い、発生から一時避難場所までを体験している。

- ・集会所及び公園を拠点とする町内の各種行事を通じ、町役員はもとより老人会、子供会のメンバーがいつも顔を合わせ、お互いの情報交換と親睦が図られている。いざ災害発生の時も集会所と公園を拠点に、避難対策を実施するよう町民の意思統一を図っているところである。

- ・災害も多種あるが台風等については進路が予測できる（タイムライン）ものについては事前に避難要請をしており、民生委員との連携も考えている。

- ・市の示すマニュアルに則り、自主防災会を組織したが、町民との議論のないままに作られたもので、見直しがなされないまま現在に至っている。このため、昨年度から町民に対し自主防の必要性を呼びかけ、本年度から自治会、老人会、女性部、地元消防団の役員で自主防災に関する委員を組織し、既定の規約、防災計画の見直し、現状に合う組織になるよう協議している。会議は毎月1回開催している。町幹部が防災について協議しているので、防災意識は相当高まっている。

- ・津波や水害のない地区の為、地震による火災に対して気をつけている。集会所には防災機器や非常食が備蓄されており、井戸もあり水の確保もされている。

- ・当自治会では防災活動（対策）には力を入れて努力している。

- ①防災訓練を年間2回実施しているが意識の低下もあり、年々参加が低調となっている

- ②避難計画作成訓練を年間5回程度実施しているが、年々低調している。

- ③避難行動要支援者への支援活動を「見守り隊」を編成し、年間2から3回（平実施している。

- ・危険マップの作製や消火栓点検及び取り扱い訓練を実施している。

【自主防災会を運営していくための課題等】

- ・水防倉庫は津市のもので自治会のものではない。倉庫内の物品も津市のものか、自治会のものか不明である
- ・資機材は訓練のために用意するというが、大災害が発生したら無用だと考える
- ・自主防災会を運営する為の自治会役員が毎年変わるため、組織として継続しにくく、成り立たない。地区の防災訓練には参加しているが、要支援者の人数も多く現段階では組織化は難しい状況である
- ・防災資機材の保有・保管場所の問題がある
- ・災害時の備蓄品、管理者、設置場所確保の問題点があり、進まない状況である
- ・自主防災会の委員の高齢化・固定化をいかに改善していくか、また女性の活用についても家庭との関係で大きな課題がある
- ・課題として、当自主防災会の台帳には、当自治会を構成する組長が各係(情報収集、伝達、避難誘導、初期消火、救出・救護、給食・給水)に充てられており、災害時にその役割を担うことになっているが、実際は組長の高齢化や自宅に要介護者と同居している組長がいる等、災害時に出てくることが困難であることが予想され、実際に組長本人からもそのような意見がでているのが実情である。また、ノウハウやスタッフの不足もあり、わからないことが多いと思う
- ・単独での自治会だけなら地域防災力強化推進補助金を利用しやすいが、複数の自治会合同の組織訓練ではただ過去の訓練を惰性的に引き継ぐだけで各自治会の思惑と意識の温度差がある。公園のある自治会はいいが無い自治会はどうか
- ・避難行動要支援者についてプライバシーの問題があってオープンにできない。
- ・地区で備蓄は用意しているし、単位で用意する場所もない
- ・過去に訓練を実施したが役員しか集まらなかったことがあった
- ・訓練のマンネリ化、消火器、AED、防災倉庫点検(1自治会だけの)現実的に頻繁に起こる地震、台風集中豪雨の訓練がほとんどない。津市はここ数年幸いにして大災害に見舞われないのでみんな安心しすぎている。
- ・津地域内で日常の生活に不便を来す程の災害がない実情の中では、老若地区民全体の者の危機管理意識が100%に近い位に希薄していることを実感している。
- ・後任の会長の候補者が決まらない。
- ・各自治会単位の自主防災会では高齢者が大多数の為、活動が困難な状況になっている。自主防災会を合同にする必要があると考える。
- ・実際被害にあわれているところで避難所運営等が出来ているか疑問である。
- ・一度災害に合って苦勞した人しかわからないと思う。他人事のように思っているため、全然協力性がないように思える。

・自治会自体高齢者が多く、実際災害が起きた時に自主防災会が機能するとは考えづらい。

・自治会役が任期1年のため細かい自主防災組織が作られず終わっている。また近年役員は女性が多く、自治会役員が防災会を運営していくのは困難であると思う。そのため、自治会とは別に組織をつくることが望ましいと考える

・①地区主体で動いているため、単位での動きがない

②地区に任せっきりになってしまっている

③会長が2年毎で交代するため、防災意識が定着していかない

・ほとんどの自治会が自分のところの集会所をもっているので羨ましい。

・自主防災に関する活動経緯がないので、事例等挙げるができない。

今後、自主防災会を運営するに当たってのいくつかの課題を挙げると以下のとおりである。

①高齢者が多い。

②普段近隣住民がどの程度の交流をしているかつかみ難い。

③災害を長年経験していない。

④準備品等、個々の考え方や事情がある。

⑤その他 これらを踏まえて万一に備える予防防災学習を行う必要性がある

・被害想定が幅が広すぎてどのあたりに活動の力点を置いたらよいか迷っている

・地区住民が様々な避難所へばらけるために把握が非常に難しい。

・①自主防災会の中長期計画がなく、自主防災会長も毎年交代することから、その場限りの行き当たりばったりの活動となっている。やる気のある人が継続して自主防災会を引っ張っていかない限り、自主防災会は絵に描いた餅でしかない。(自治体の自己満足や責任の逃げになっているのではとも感じる。) 現にうまくいっている自主防災会は特定の人が継続しているか、またはその後、仕組みが上手く回っているかのいずれかであると思われる。これを打破するには津市からの強制力で行うしかなく、津市が協力なリーダーシップを発揮することを決定し、対応してほしい。

②当自治会は、要支援者制度などの手続きは民生委員が行い、日常の見守りは自治会(組長)が行うこととなっている。見守りのひとつとして敬老お祝い対象者の確認を通して実施したり、災害時消息確認一覧を作成し、これを年1回メンテすることなどで、見守りしようとしているが、現実には組長さんの意識や力量の問題もあり、十分機能しているとは言えない状況であり、これでよいのかと悩んでいる。

・それぞれの家庭が、自助をするので精一杯でほかの人々に手が回らないのが現実だと思う。ただ、指定避難所が目の前なので避難しやすい環境にある。高齢者

や障がい者にそこまでの移動のお手伝いをどのように行うかが課題である

- ・地区自主防災協議会主導の活動で自主防災会としての活動は年々参加できる人数等により現実的に自主防災会活動そのものが困難な状況にある

- ・台風などの災害発生時に自治会集会所に一人暮らしの老人を避難させたいが、停電の場合、冷暖房できないのでエアコンを動かせる発電機を設置してほしい。

- ・①水防の備品はある程度準備されていると思うが、大震災の備えはできていない。屋上が避難場所であるなら屋上に備蓄が必要かと思われる。

- ②津波で襲われないまでも、液状化現象で自宅に戻れない人が多数出ると思われる

- ③避難困難者の救出について、高齢化により自主避難できない人が増えている

- ・今年初めて自治会活動に加わり、いきなり会長になった。引継ぎの際、自主防災の会長を兼ねることは聞いたが具体的な事は特になく組織自体機能していない様子である。防災用の倉庫は隣の自治会と共有で限られたものしか置けず、また当自治会の地域的には公園等もないため、新たに設置することも難しく、備蓄は各家庭にまかせている状態である

- ・2つの自治会があり、高齢者も多く、防災訓練もままならない。地区により災害の形態もそれぞれ違うので一概には言えない。消防隊の方に聞き、火災、水害、地震時のそれぞれの取るべき行動は話し合っている。

- ・自治会員全員がマンションの住民であり、互いの顔や名前を知らず、自治会役員が毎年交代するため、自主防災組織として機能することが困難である。先進的なマンションでの取り組みに学びつつ、その在り方を研究することが我々の課題である。

- ・小規模組織で活動が十分でない。住民の意識が低調である。

- ・昨年地区全体で防災活動を実施したものの、組織としての活動があまりできていない。活動をして防災力を上げないといけないのは理解しているがどうしていいかわからないのが正直なところである。なかなか役員での具体的な会議の場を持ってない

- ・自主防の役員は順番ではなく実動できて何年も続けてできる方を選ぶべきと考えている。1年ごと交代したり組長や自治会役員が名前だけでやっていたはいざという時に何も活動できないと考える

- ・民生委員との連携で避難行動要支援者を中心に一世帯ずつ精査しているが、仕事を持った会長では限界がある。本来の行政の求める防災活動にはリーダーシップとなる行政の人（各自治会 1 名担当）中心でないと自治会の活動のみでは大きな差が生まれる。当自治会は一人暮らしを中心に防災活動の輪を広げようとしている

- ・単独自治会では対応できない。地区で対応をしている。
- ・まだ若く小さい自治会で自治会全体の活動がこれからの状況である。そのような中で何をどう進めればよいのか理解していない。現在は防災倉庫の設置と中身の精査をしている段階。特に小さい自治会なのでどこまで準備すれば良いか判断しかねている。もし何かヒントや助けてもらえることがあればお願いしたい
- ・防火・防災訓練等に参加者が集まらない
- ・地区の単組の自主防災会では課題が多く、意識高揚を自治会の班長さんになった全員に啓蒙することが第一歩である。若い人が少なく、参加者はほぼゼロなので、老人だけの参加ではどうしようもない状態である
- ・自治会全体に高齢化が著しく、自治会役員の選出を含めて運営自体が困難になっている。
- ・当地域は一時避難所が確保できたことは一歩前進。指定避難所へ逃げるか、自宅へ戻るかの判断は個人に任せている。指定避難所の運営はそこに居る者たちが自主的にすることになる。県文の協力体制が全くつかめず、逃げた者たちはどこに、どのように収容されるのか全く予想がたたないのが現状である。エントランスに集まり、右往左往しているだけになると考えている。
- ・地域全体が高齢化しているので、組織は過去に作られたが実動していないし、実際に災害が起きた時に機能するかどうかかわからない
- ・住民の高齢化による人材不足。地区自主防災会の交流会の実施があればよい
- ・気楽に使える会場がない。自主防災会の役員は自治会役員と別人にし、一定期間続けるのがよいと思う
- ・自治会長として災害時の避難については関心が低い。そのため施設の見学や防災講演会を各年ごとに実施し、住民の防災に対する意識向上を図っていきたい
- ・高野尾地区は幸い津波等大規模災害が少ないと考えている人が多く、防災意識が薄いように思われる。意識高揚が課題である
- ・災害が起こってからでは保々何もできない。自ら防衛し、自らが助けを近所の人に求めなければならない。近所の人には助けられる状態をつくっておかなければならない。当自治会では高齢者が多く、支援が必要な人は自らが連絡する体制を取らないと今後さらに高齢者が増え、ますます自己防衛が必要と思われる。今やっていることは間違いではないが、現状に合っていないような気がする。自主防衛ではなく自己防衛を基本にできたらいいと思う。
- ・困ったことはすぐ連絡があるが普段は防災について無関心の町民が多い
- ・住民自身が高齢化しているため、支援する人が年々減っていく。
- ・メンバー（組長）が毎年変わるのでなかなかコミュニティが取りづらい
- ・自主防災会そのものも形骸化しており、毎年度その班員も変更されるが機械的

に部屋順割当等によりその氏名のみが自治会へ提出されている。実質的には全く機能していない

- ・自主防災会のメンバーが自発的に構成されているのではなく、当番でやむなく対応している状況なので、なかなか有効な組織として機能させることが難しい（年度毎でメンバーが総代わりするとノウハウも蓄積されない）

広域の方は意識の高いリーダーが長期間指揮を取っているので、訓練や研修はそちらの枠組みに期待している状況

- ・①防災意識が全体に薄く、住民間のコミュニケーションも希薄になっている

- ②自主防自体が有形無実で全く機能していないことから、全面的に見直す必要がある

- ③目標とするべき自治会を紹介してほしい

- ・自治会長が替わると要支援者の支援をしなくなる可能性があるため、心配している

自治会長の後任がおらず、悩んでいる。2年交代の方法もあるが、それでは引継ぎがうまくいかない可能性があると考えている。

- ・自主防災会単独による防災活動はなかなか実行が難しい。地域を超えて小学校単位での訓練を企画してもらえれば参加しやすいと考える。地区合同企画を進めてほしい。

【行政への要望等】

- ・自主防災組織の役員を対象とした研修会を定期的を実施していただけるとありがたい
- ・防災以外にも市や地域から依頼される仕事は多く、また、役員も会社勤めなどしながら自治会活動している者も多く、自らの仕事の片手間では自治会の仕事すべてできる量ではないこと。労力に見合う報酬も無く、役員のなり手がいないこと、そのためどうしても役員は1年交代の当番制となってしまう、引継ぎがうまくできていない、連携がとれていない等の悪循環が生じているのが今の現状。避難訓練など大掛かりな事をするには大変大きな労力を必要とするのが現状であり、これらの実施を促される場合は各自治会任せにするのではなく、例えば人員を派遣して頂くなど十分なフォローをお願いしたい
- ・我々の判断では難しいので市から指導をお願いしたいが負担できる金額がない。市からの地域防災力強化推進補助金を多くしてほしい
- ・南海トラフ地震を想定した場合、単一地区だけでは解決できない課題がたくさんある。特に防災資機材準備においては自治会単位ではなく連合会または複数連合会で共同購入する場合の手続きの簡略化をしてほしい。また、高台に海岸地域の人たちの避難所運営資機材が保管できる倉庫等がほしい。
- ・もっと近くの避難場所を考えてほしい
- ・①仮設住宅の土地は確保しているのか疑問である
- ②真剣に南海トラフ地震想定訓練はしているのか疑問である
- ③台風等の自然災害でも対応出来る体制を取っているのか疑問である
- ④市役所が十分に考えているとは思えない
- ・小規模の自治会が集まった自主防災組織が組織立って行動するのは無理。避難所運営について、今年は4回の台風が接近し、いずれも運営の役員が務めた。避難所への避難者の数にばらつきがあったため、台風時の防災行政無線の放送内容やタイミング、市の担当者の割り当て等一考していただきたい。例年、川の上流の水位のみを判断材料にして避難情報を発令されているようだが、地域の降水量や浸水、過去の経験、知見をもとに最善の情報伝達をお願いしたい。
- ・①公園を設けること
- ②集まる場所（集会所）を設けること
- ③すべて土地と建物等、市で作ること。自治会でできることじゃない
- ・①避難所が低地にあるため避難所までの道路が冠水したら避難できないため、対処してほしい。
- ②橋の耐震強度は定期的に測ってほしい。
- ③津波緊急避難所を増設してほしい。

- ④川への排水ポンプ増設をしてほしい。
- ・①各自主防災会へのアンケートでは全体把握は難しいのではないかと
- ②災害の種類ごとにアンケートしてはどうか
- ③災害発生からの時間別に何をするのか、どうするのか、イタリア等ヨーロッパの各国を見習ってはどうか
- ④平時の予算が不足していると思われる
- ⑤高台への避難する道が崩れて通れないことがある
- ・大規模災害時の防災室の対応が心配。全て防災室で窓口は出来ない。被災者が全て防災室へ連絡することで迅速に対応していただければよいが、限りがある。支援の内容によっては、各部署で対応できるよう地域住民の方に周知徹底していただくとともに、各担当部署で対応できるような体制を作ってほしいと思う。市民に周知していただくとともに各部署で対応できるよう市内部の体制を作ってほしい。
- ・自主防災会の活動として自治会員の防災意識を高めるために自主防災会の研修で使いたいので、最近の災害記録映像の貸し出しをしてほしい。防災備品を購入できる資金の増額・購入できる制限品を明確にしてほしい。
- ・助成金がないと炊出しの費用等がかかり訓練費用が足りず、継続できない
- ・避難方法について無線で何を言っているかわからない。ラジオ、テレビチャンネルに緊急放送を流せたらいいと思う
- ・各防災会により意識格差、知識の差が大きい。また地域特有の条件もあり、市からのマニュアルを基に各防災会に水平展開すること自体に無理がある。もっと各自治体の特性（要望事項）を丁寧に、根気強く聞取り「実際ここでは具体的にどうやっていくべきか」を指導していただきたい。少なくとも市が考えているマニュアルについていける防災会は少ないと感じる。これで給料をもらっているプロとして、個別に顔を合わせて個々の防災会の実情を知り、時間がかかってもひとつずつ進めてはいかがか。
- ・自主防災協議会は自治会で運営、独自の防災活動は行政が指導を。自主防災協議会にも補助金を検討してほしい。自主防災協議会の年会費を無料にしてほしい。
- ・各地区合同の「津波避難訓練」が過去に吹き鳴らしサイレンを合図に地区一斉に行われ、初めての訓練だったが多数の住民が当自主防災会からも参加した。大成功の訓練だったので翌年も継続して実施していただくよう連合自治会の会長会議で要望したが未だ実現していない。各防災会の負担も少なく、手軽に実施でき継続して取り組むことで住民意識の向上に大きく役立つことなので津市全体で実施していただくことを強く要望する。吹き鳴らしサイレンの利用は大きく住民意識の向上を図る施策になると思うので継続実施を希望する

【その他意見】

- ・今後地区で話し合いを実施し、色々なことを決めていきたい。
- ・最大の防災は火災である。個人の注意と啓発していくことから始めなければならないと思うが、防災活動にあまり力を入れられない実情もあると思う。例えば東日本震災のとき、防災活動がどれだけ役だったかを検証してみる必要があると思う。
- ・まずは私費にて個人の備えを充実させるべきと考える。行政に頼り切らない体制が必要である。
- ・大災害はいつかどこかで発生することを前提に住民が最低限生きる方法を自覚できるよう、今まで大災害（阪神淡路地震、東日本大震災等）にあわれた被災者の普段の備えや被災後の具体的な体験を取り入れ防災に役立ててほしい。（役立ったものや行動、サバイバルの知識など）
- ・近年、台風、地震と未曾有の災害が起こっている。その原因はほとんどが同じようなことばかりで全く対策されていないように思われる。

■自主防災組織に関するアンケート（アンケートシート）

津市自主防災組織アンケート調査

自主防災組織に関するアンケート調査のお願い

平成 30 年 9 月

平素より、地域防災力の向上に御協力いただき、厚く御礼申し上げます。

さて、今年度に入り、大阪府北部地震や西日本豪雨の発生等、災害により甚大な被害が生じています。また、津市においては、南海トラフ地震が今後30年間で70%から80%の確率で発生すると危惧されている中、これらの大規模な災害が起こった場合、その被害を最小限におさえるためには、市民、自主防災組織、行政の各主体がそれぞれの責務と役割を理解し、互いに連携していくことが重要です。

実際、南海トラフ地震においては、被災地域が、九州地方から関東地方まで広範に及ぶと推定され、津市内でも約10万人の避難者が生じる想定も出ております。

今回のアンケート調査は、自主防災組織における活動状況とその課題を改めて把握することで、今後の地域防災力の向上に役立てていくことを目的として、全ての自主防災組織を対象に実施いたします。

なお、皆様からいただいた回答は、このアンケートの目的のみに使用し、個人にご迷惑をかけることはありません。

お忙しいところ誠に恐縮ですが、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

— 記入に際してのお願い —

- ご意見を自由に記入していただくところがあります。
- 記入が終了しましたら、もう一度、記入漏れがないか確認してください。

【回答期限】平成30年10月12日（金）

このアンケート調査について、ご不明な点については、下記担当までお問い合わせください。

○津市危機管理部防災室（Tel 229-3104）

○各総合支所地域振興課

久居総合支所（Tel 255-8816） 河芸総合支所（Tel 244-1700）

芸濃総合支所（Tel 266-2510） 美里総合支所（Tel 279-8111）

安濃総合支所（Tel 268-5511） 香良洲総合支所（Tel 292-4374）

一志総合支所（Tel 293-3138） 白山総合支所（Tel 262-7011）

美杉総合支所（Tel 272-8080）

自主防災会名			
会長名		記入者名	

1 自主防災組織の構成について

(1) 自主防災組織の役員（会長、副会長、幹事、班長等）は何人いますか。

会長（　　人）、副会長（　　人）、会計（　　人）、幹事（　　人）

班長（　　人）、その他（　　）（　　人）

(2) 自主防災組織の役員で、女性は何人いますか。

（☐いる　　人、☐いない）

(3) あなたの自主防災会は、避難する場所を決めていますか。

☐ 決めている。（避難場所　　） ☐ 決めていない。

2 自主防災活動について

(1) 平成29年度に、どのような自主防災活動をされましたか。該当するもの全てにチェック等をお願いします。

☐ 防災知識の啓発活動（防災学習会を含む）の実施

☐ 防災訓練の実施

☐ 防災資機材の購入、整備

☐ 組織内外の会議、打ち合わせ等の会合

☐ 防災研修会等への参加

☐ 特に何もしていない

☐ その他

（具体的に　　）

(2) あなたの自主防災会では、防災訓練を年に何回実施していますか。

（防災訓練の回数　　回/年）

(3) 防災訓練の内容はどのようなものですか。該当するもの全てにチェック等をお願いします。

☐ 会場型訓練（消火訓練、救出救護訓練、避難・誘導訓練、給食・給水訓練）

☐ 夜間訓練（夜間に発生した場合に備える訓練）

☐ 災害図上訓練（地図を囲み災害時の対策等を図上で考える訓練）

☐ 避難所設営・運営訓練（避難所の管理運営と復旧時を想定した訓練）

☐ その他（具体的に_____）

(4) 自主防災訓練を計画・実施する上で問題となっていることは何ですか。該当するもの全てにチェック等をお願いします。

- ☐ 訓練計画の作成や実施についてのノウハウが不足している。
- ☐ 訓練計画の作成や、訓練を実施するスタッフが不足している。
- ☐ 訓練内容がマンネリ化している。
- ☐ 参加者が集まらない。
- ☐ 訓練実施のための費用の支出が難しい。
- ☐ その他（具体的に_____）

(5) あなたの自主防災会が保有している防災資機材について、該当するもの全てにチェック等をお願いします。

- ☐ 初期消火用資機材（消火器、バケツ等）
- ☐ 携帯用無線通信機
- ☐ ハンドマイク
- ☐ 救助用資器材（ジャッキ・バール等）
- ☐ 避難救出用資機材（テント、担架等）
- ☐ 水防用資機材（土嚢用袋、かけや等）
- ☐ 救護用資機材（救急医療用セット、ろ水器等）
- ☐ 個人の装備品（ヘルメット、防火衣等）
- ☐ 可搬消防ポンプ
- ☐ 防災倉庫
- ☐ その他（仮設トイレ、防水シート等）

（具体的に_____）

(6) 南海トラフ地震や大規模災害が発生した場合、国や三重県、津市から救援物資がすぐに到着しないことも考えられますが、各自主防災会で災害に備えて上記以外に準備していますか。該当するもの全てにチェック等をお願いします。

☐ 食糧

（具体的に_____）

（記入例：乾パン900缶、2リットル水900本（100世帯×3日分））

☐ その他

（具体的に_____）

- (7) あなたの自主防災会が、今後、整備をしていきたいと考えている防災資機材について、該当するもの全てにチェック等をお願いします。

- ☐ 初期消火用資機材（消火器、バケツ等）
- ☐ 携帯用無線通信機
- ☐ ハンドマイク
- ☐ 救助用資器材（ジャッキ・バール等）
- ☐ 避難救出用資機材（テント、担架等）
- ☐ 水防用資機材（土嚢用袋、かけや等）
- ☐ 救護用資機材（救急医療用セット等）
- ☐ 個人の装備品（ヘルメット、防火衣等）
- ☐ 可搬消防ポンプ
- ☐ 防災倉庫
- ☐ その他（仮設トイレ、防水シート等）

（具体的に _____ ）

- (8) 津市地域防災力強化推進補助金において、新たに補助対象に追加を希望する防災資機材等がありましたら、ご記入ください。

（具体的に _____ ）

3 避難所運営委員会※について

※避難所運営委員会とは、避難所の運営を自主的に協議し、決定するために、自主防災組織、避難者、行政担当者、施設管理者等で構成する組織。

- (1) 大規模災害発生時（南海トラフ地震等）には、行政職員の避難所への到着が遅れたり、職員自身が被災してしまうこともあるため、避難所の開設・運営は地域住民が主体となって実施することも必要となる場合がありますが、このことを知っていますか。

☐ はい ☐ いいえ

- (2) あなたの組織では、避難所運営委員会を設立されていますか。

☐ はい ☐ いいえ

（はいを選んだ場合は、(3)から(7)についても回答をお願いします。）

- (3) 避難所運営委員会の中で女性が委員として存在している委員会ですか。

☐ はい ☐ （ _____ 人） ☐ いいえ

- (4) 避難所運営マニュアルを作成していますか。

☐ はい ☐ いいえ

(5) 避難所運営訓練等の活動を行っていますか。

☐ はい ☐ いいえ

(6) 避難所運営委員会の運営について、地区で取り組んでいる事例、参考となる事例等がありましたら、該当するもの全てにチェック等を入れてください。

☐ 避難所運営ゲーム（HUG）を実施している。

☐ 避難所運営訓練（実践形式）を実施している。

☐ 夜間訓練を実施している。

☐ 広域の避難所運営訓練を実施している。

☐ その他

（具体的に _____）

(7) 避難所運営委員会の運営について、課題等がありましたら、該当するもの全てにチェック等を入れてください。

☐ 避難所運営委員会の運営についてのノウハウが不足している。

☐ 避難所運営委員会の運営に協力してくれるスタッフが不足している。

☐ 参加者が集まらない。

☐ 訓練実施のための費用の支出が難しい。

☐ その他

（具体的に _____）

4 避難行動要支援者名簿に係る個別計画※について

※個別計画とは、地域の特性や実情を踏まえつつ、避難行動要支援者名簿情報に基づき、避難行動要支援者と打ち合わせ、具体的な避難方法等を記載したもの。

なお、津市では、避難行動要支援者避難支援活用シート（津市避難行動要支援者避難支援対策マニュアルの21ページに掲載してあります。）を作成しており、当該情報に記載してあれば、個別計画を網羅できているものとしている。

(1) 避難行動要支援者に対する個別計画を作成していますか。

☐ はい ☐ いいえ

(2) 個別計画の作成や平常時の取組について、地区で取り組んでいる事例、参考となる事例等がありましたら、該当するもの全てにチェック等を入れて

ください。

- ☐ 避難行動要支援者の所在を記載した地図を作成し、活用している。
- ☐ 避難行動要支援者避難支援活用シートを作成し、活用している。
- ☐ 玄関先へのタオル掛けや旗等を置く訓練等を実施している。
- ☐ 見守り隊を構築し、避難行動要支援者の支援体制を整備している。
- ☐ その他

(具体的に_____)

(3) 避難行動要支援者を支援する際の課題がありましたら、該当するもの全てにチェック等を入れてください。

- ☐ どのように支援したらいいのかわからない。
- ☐ 支援するための人手が足りない。
- ☐ 避難行動要支援者とうまく接触する方法がわからない。
- ☐ 地域でのコミュニティが希薄である。
- ☐ 周りの方の防災意識が高くない。
- ☐ その他

(具体的に_____)

5 その他

自主防災会で取り組んでいる事例、他の自主防災会の参考となる事例、自主防災会を運営していく上での課題等がありましたら、ご記入ください。